



パブリック・セミナー
官民パートナーシップの国際機関で働く
—世界エイズ・結核・マラリア対策基金—

2009年6月23日(火) 18:30-20:30

場所：JICA 地球ひろば 講堂

主催：外務省、(財) 日本国際交流センター/世界基金支援日本委員会 (FGFJ)
世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (世界基金)

◇ プログラム

18:30-18:35 司会 山本 正 世界基金支援日本委員会ディレクター
(財) 日本国際交流センター理事長

開会挨拶

山本 栄二 外務省国際協力局参事官 (地球規模課題担当)
世界基金日本代表理事

18:35-19:15 プレゼンテーション
ビルギット・ポーニアトフスキー 世界基金理事会担当部長代行

19:15-19:45 コメント
青山 温子 名古屋大学大学院医学系研究科教授
世界基金技術評価委員会 (TERG) 委員

稲場 雅紀 (特活) アフリカ日本協議会国際保健分野プログラム・ディ
レクター、世界基金理事会先進国 NGO 代表団理事メンバー

19:45-20:30 ディスカッション・質疑応答

◇ プレゼンター・コメンテーター略歴

ビルギット・ポーニアトフスキー (Birgit Poniatowski)

世界エイズ・結核・マラリア対策基金理事会担当部長代行

ドイツ政府の科学・高等教育政策諮問機関であるドイツ科学協議会、国連大学を経て、2007年より世界基金に勤務。世界基金の様々なステークホルダーが集うパートナーシップ・フォーラムの運営を担当した後、2009年1月より現職。理事会担当部門の長として、パートナーシップ・フォーラムや、各国政府、NGO、感染者、民間財団など幅広いステークホルダーの代表で構成される理事会、その他委員会の運営に従事し、理事会と同基金事務局との円滑なコミュニケーションの統括、世界基金のガバナンスに関する政策策定に貢献している。

東京の国連大学では学術研究官を務め、国連が取り組む地球規模の諸問題について理解を深めるためのグローバル・セミナーや、将来国連機関や外交官としてのキャリアを目指す人を対象とした国際講座など、大学生・大学院生等を対象とした研修・教育事業を統括した。ドイツのボン大学、ハイデルベルグ大学、日本の国際基督教大学 (ICU) で日本研究、政治学、地理学を学び、ハイデルベルグ大学より博士号を取得。政治的意思決定過程のあり方、経済・社会開発政策に関心が高い。日本語も堪能。

青山 温子

名古屋大学大学院医学系研究科教授

世界エイズ・結核・マラリア対策基金技術評価委員会委員

専門分野は国際保健医療学。特に、ジェンダーと健康の問題や、開発途上国の保健医療政策に詳しい。基礎医学研究、産婦人科臨床に従事後、1992年に国立国際医療センターに移り、ODA事業の企画や技術指導などに携わった。その後、世界銀行の保健医療専門家として、中東地域の開発プログラムや調査研究などに従事した。2001年より現職にて、研究と後進の指導にあたっている。2007年より、世界エイズ・結核・マラリア対策基金技術評価委員会委員として、5年評価をはじめとする基金の評価事業に関わっている。また、JICA 外部有識者評価委員会委員、外務省 ODA 総合戦略会議委員、厚生労働省国際協力事業評価検討会会員、財務省国際開発金融機関研究会委員、内閣府アフガニスタンの女性支援に関する懇談会委員などを歴任し、専門的視点から日本の国際協力に対して助言している。

稲場 雅紀

(特活)アフリカ日本協議会国際保健分野プログラム・ディレクター

世界基金理事会先進国 NGO 代表理事メンバー

2002年から(特活)アフリカ日本協議会に参加。現在、国際保健部門ディレクターを務める。人間の安全保障上の脅威ともいわれる HIV/AIDS・感染症問題について、政策・アドボカシーの分野から取り組み、アフリカをはじめとする途上国で HIV/AIDS に取り組む市民社会と日本の市民社会の連携の強化に努めてきた。世界基金については、発足当時から同基金に関する日本社会の理解促進と日本政府の拠出増大に向けた働きかけを実施。2004年の第9回理事会より、先進国 NGO 代表団のメンバーとして参加。一方、2008年の北海道洞爺湖サミットでは、G8 サミット NGO フォーラム保健医療ワーキンググループ代表、貧困開発ユニット政策チーム代表を務めた。